2．実施プラントの選定理由

当社は，何よりも安全性の確保を最優先に，慎重に検討しました。

玄海１，２号機	玄海３，４号機	川内１，２号機
（２ループ）	（４ループ）	（３ループ）
燃料１２１体／基	燃料１９３体／基	燃料１５７体／基

理由１『安全に実施できる』

○玄海及び川内原子力発電所の，どのプラントでもプルサーマルを安全に実施可能。

・ 国により，ＭＯＸ燃料を全炉心の１／３程度*まで装荷できることが確認されている。（指針）

＊ 現状の運用計画は全炉心の１／４程度（＜１／３）

（なお，安全性については，今後，国の厳格な安全審査を受けます。）

○　○　○

理由２『１基のプラントで，より多くの燃料を装荷できる』

○当社では，１基のプラントでプルサーマルを実施する計画としており，玄海３，４号機が，１基でより多くのプルトニウム（ＭＯＸ燃料）を利用でき，エネルギーの長期安定確保及び核不拡散の観点から望ましい。

・ＭＯＸ燃料の装荷量（１／４の場合）

玄海１,２号機	≪	玄海３,４号機	＞	川内１,２号機
約２８体		約４８体		約４０体

（使用済燃料の再処理実績（ウラン重量）　［2004 年３月末 現在］
玄海：約３９０トン　，　川内：約７０トン）

○

理由３『燃料取扱上の作業スペースが広い』

○玄海３号機は，４号機より２倍程度広い作業スペースがあるため，ＭＯＸ燃料専用の大型の輸送容器や検査装置の配置スペースが十分に確保でき，燃料受入検査等を実施しやすく，作業の安全性が十分確保できる。

玄海３号機にて実施